

2026.1.29 (木)
第28回例会
(通算3837回)

会長 荒井 剛
副会長 池田 一己
幹事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

2025-2026年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ツ輪ビル 2F
TEL 0154-24-0860 FAX 0154-24-0411

2025-2026年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026年度
R1会長 フランチエスコ・アレッソ
第2500地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北RC)

本日のプログラム 会員卓話「再婚の金融経済状況について」(プログラム委員会)

次週例会 節分にちなんで (親睦活動委員会)

- ロータリーソング：それでこそロータリー ■ソングリーダー：中村 司君
- 会員数 106名
- ビジター
- ゲスト

会長の時間 荒井 剛会長



ントがあったのですが、そこに私と横田幹事と次年度の八幡幹事と3名で参加してまいりました。その話を少しさせていただければと思います。

このミーティングは、会員増強をテーマにしたイベントなのですが、講師として田中久夫さん、2840地区の2017-2018年度のパストガバナーで、昨年のP E L Sでも来ていただいて話していただきました。このパストガバナーは高崎ロータリークラブの出身で、高崎ロータリークラブの会長年度は2014-2015年度ですが、その1年になると60人のクラブを110人にまで上げるという、1年間で50人の会員増強を果たしたという、会員増強のスペシャリストという方です。その方が会員増強、クラブの活性化をテーマにしたお話を日曜日にしていただきました。

田中久夫パストガバナーのお話によりますと、クラブの活性化のためには、三つの要素が必要ですと言われています。

ひとつの絵に例えると、ひとつは土壌・土です。ここはしっかりしていないといけません。その土壌にはクラブの文化や良質な居心地、ここが大事です。そこが

ないとダメです。

土台になっている土壌の上に何が必要なのか。種ですね、種を蒔く。その種は何を意味しているかというと、新入会員です。新しい会員は多様性、いろんなタイプの新入会員が入ることによってクラブを活性化させます。これまでの会員にはいない会員を入れたり、多様性の人材を確保し育てたり、これが種になります。最後、良質な土壌の上に植えた種を育てるためには水が必要です。水を注ぐ、この水は何を表すかというと、今、所属している現役の会員のメンバーです。その会員のメンバーの寛容さ、これが合わさってクラブが活性化される、と話されていたのがすごい印象でした。田中久夫パストガバナーで記憶に残っているエピソードがありましたので、それも紹介させていただきます。会員増強でご本人が1年間で50人も会員を増強させたということですが、「気を付けていたのは、誰でもいいわけではない」ということをパストガバナーは話されておりました。

何をしたのかというと、「簡単には入れるようにはしない。簡単には入れるクラブだったら、簡単に辞めてしまうクラブだと思われてしまう」と。なるほどと思いました。何をしたのかというと、クラブに入るためには声掛けをした後に面接をする。候補者本人と面接をして、「1週間後、2週間後くらいに内部で検討して、合否の結果を伝えます」という形で試験の結果を伝えるようなことをしていました。

そうすると、結果は決まっているのですが、「無事に通りました」と、伝えることによって「通ったのだな」

と、何も分からずに声を掛けられている方が多いにせよ、入会する時に「自分は、このクラブの面接をして、クラブのみんなの試験を通ったんだ」と感じて入っていただくのと、そうではないのとでは全然違うのだ、と話されていたのが凄く印象的でした。

ふたつ目が、クラブの会員増強をしようとしていて、いろいろなクラブを調査した時に、とあるクラブの話になりました。京都南クラブは150人くらいがいるのですが、入会希望待ちが、いわゆるウェイティングリストだけで50人くらいいるそうです。入会待ちがいるロータリークラブがあることを知って、どうなっているのかと調査したそうです。「会費が安いからではないか」「会費が安ければ多いのでは」と調査したことろ、年間90万円するらしいです。年間、90万円する京都南クラブでも、それは雰囲気もいいのだろうし、先ほどの土壤もいいし、種もいいし、水もいのであります。ウェイティングリストで50人がいるのは凄いことと思いました。

最後に、田中久夫さんがガバナーの時に、地区の会員を増やそうとしたときにも、いろいろ悩みを抱えてぶつかる所があると。自分が会長の時にもぶつかる会員がいる。ガバナーの時にはぶつかるクラブもある。というときに、女性初のR I会長だったジェニファー・E・ジョーンズさんに会う機会があって、どうすればいいだろうかと相談をしたことがあると、と話されました。

彼女の回答は、明確で、なるほどと思ったということです。彼女はどう言ったかというと、「雑草には水をやらなくていい。分からない人は、ほっとけばいい」と違う言葉で言って、なるほどと思ったと言っていました。自分の信念を貫いた結果、会員が増えたと話されていました。

当クラブ、私の年度でも会員増強がひとつのテーマで、会員増強を90年に向けて増やして行きたい、実行していくたいと言っておりますけれど、もう上半期が過ぎてしましました。全く着手していなかったわけではありませんが、下半期は、いよいよ本腰を入れて会員増強に向けて、90周年に向けて会員を増やして行きたいと思っていますので、皆さまのご協力をお願いしたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

幹事報告 横田 英喜幹事

幹事報告をさせていただきます。

4月4日にIM(インター シティ ミーティング)が行われます。詳細は上から下りてきていませんが、今のうちに皆さんの予定を入れていただければと思います。

次年度、西村ガバナー補佐を筆頭にうちのクラブがIMの設えをしなければいけない関係もあります

で、できれば、出たことのない方についても雰囲気の体験をしていただいて、「来年は自分たちが行わなければならない」ことを思いながら参加していただければ幸いかなと思います。

その翌週、4月11日は、CLLS(クラブリーダーシップラーニングセミナー)が、次年度の担当にはなりますけれども、旭川で開催されます。

2週続けて、4月4日、4月11~12日とロータリーの行事が週末に入ってしまいます、できれば皆さんで参加していただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

ごあいさつ

東京品川中央ロータリークラブ会長エレクト

相沢 峰君



釧路の皆さん、こんにちは。2750地区・品川中央ロータリークラブからまいりました相沢峰と申します。職業はビルメンテナンスで、去年から釧路プリンスホテルのお仕事を受けまして、毎月、釧路市に行くようになりました。

釧路市の6つのロータリークラブは、ほぼメークアップでお邪魔しました。今日、駐車場に着く瞬間に、やっぱり釧路ロータリークラブさんは凄いなと。なぜかと言うと、満車状態です。

これからも頻繁にお邪魔しますので、これからよろしくお願ひいたします。

■本日のプログラム■

会員卓話「最近の金融経済状況について」

プログラム委員会 藤井 敬亮委員長

皆さん、こんにちは。プログラム委員会の藤井です。本日は、日銀釧路支店長佐々木俊和君より「最近の金融経済状況について」というところで、やわらかくお話ししていただけるということでございますので、どうぞお楽しみください。よろしくお願ひいたします。

会員卓話

日本銀行釧路支店 支店長 佐々木俊和会員

皆さん、こんにちは。貴重な機会いただきありがとうございます。時間も限られていますので、5つぐらいにポイントを



絞ってお話したいと思います。

まず、最初に「上がるのか」というところから始まりたいと思います。

株価です。日本とアメリカ、ヨーロッパの株は基本的には上がってきています。一般的にというか、経済学的には、インフレになると基本的には株価は上がりやすいので、基本的にはこの流れは変わらないでしょ。トランプが発言したと言ったら下がったとかありますけれども、トレンドとしてはインフレで、マクロで見ると企業は設けやすくなる。金利を上げれば銀行が儲かりやすくなる。派生して貸し出しやすくなるという形なので、インフレの傾向が続くと基本的には、株は上がっていくような状況であります。

ちなみに、現金給付とかありますけれども、それが世の中を巡っていくと最終的には企業に行くじゃないですか。現金給付をして外食・レストランする、旅行に行く、教育資金を使うと、最終的にある程度が企業に行くので、企業が儲かりやすくなるのです。お金を使うので、個人の人は喜ばしいことなのですけども、現金給付も最終的に企業に行くのです。何を言いたいかというと、株が上がりやすい世界というのは、株を持っている人が儲けやすいということなのです。持っている人と持たざる人の差が生まれやすくなる。

昨日、ある人の講演を聞いたのですけど、2019年以降の足元までに10億円以上預金されている口座が85%上がっているみたい、と言うのです。それだけ金持ちが増えているということなのです。

多くの方は多分そんなことはあまりないと思うので、「そんな預金ないよ」ということなのでしょうけど、お金持ちは資産効果でどんどんお金持になっている。なので、東京都心のマンションが5億円もするのが平気で売られているという。昨日、いらっしゃった方は福岡からでしたけども、福岡のマンションでも2億円みたいに、と言っていましたので、株を持っている、マンションを持っている、土地を持っているというところと、持たざる人との差が上がりやすいと。これは金利です。基本的には上がっています。あとで細かく話しますけども、ここの上がり方、急に足元上がっているところがポイントです。急に上がっているので、大丈夫かというのは、のちほどお話したいと思います。

金利というとあまりピンとこない部分あると思うのですけど、ご自身が銀行から借りるのは別なのでしょうけど、世の中で言われている金利で基本的にいつも言われるが国債の金利になります。いわゆる国の借金ですね。金利が上がると悪いことになるという、株と少し違うのが金利のとっつきにくいところです。ごく雑駁にいうと、国が借金するときに利回りを付けて借金します。その借金の仕方が、人気がないと利回りを高くしないと買ってもらえないのです。社債とかもそう

だと思うのです。これだけ利回りがあるのでうちの社債買ってください、その調達したお金で事業をやるのですと。すごく人気のある大企業、有名メーカーさんとかであれば、金利が1%とかでも、「この会社は安心だよね、確実に1%儲かるよね」となるのでいいのですけども、それが名もない会社になると「3%ぐらいでないとお宅の社債なんて買いたくないよ」と。同じように、国の借金の仕方が悪いと金利を上げないと売れないという、なので金利が上がると国債の人気がないということになるのです。

いま、ご存じのとおり、どの政党も基本的には財政政策で借金をいっぱいするような政策になりますよね。「消費税減税、財源どうするんだ」「高齢化によって社会保障どうなるんだ、財源必要だよね」。でも、「こうするんだ」と言う。そうするとマーケットが「また国債が増発されて国の借金増えるよね。こんなに増やして大丈夫なのか」といって評価をしなくなると金利が上がってくるのです。

足元のところがピョンっと上がっているのは、1カ月くらい前から、政党だけの責任ではないのですけども、国の借金が増えしていく方向でどんどん言い始めているので、それを気にして日本の国債、国の借金の人気がなくなる、国債の金利が上がるという世界になってきている状況です。

為替に関しては、足元、トランプが何かを言ったり、アメリカがどうやったりで、少し円高になっていますけど、右上に行けば行くほど円安なのです。だんだん水準が上がっています。振れはあるのですけども、基本的には円は安くなる方向にはなるのだと思いません。それは、ちょこちょこ動くのですけども、日本のいまの経済情勢と海外の経済情勢を比較すると、海外のほうが評価されてはいるのです。ですので、これで一気に円高だといって、150円が40円、30円、20円になっていくというよりは、150円近辺でダラダラ行って、また水準が上がって行くのかとなると思うのですけども、経済情勢全体見ると、円安がいきなり変わって円高になるかというと、あまりそういうものでもなさそうというところです。

それから物価の予想です。横に引いているのが2%です。家計とかエコノミスト、市場参加者の物価の予想は、今まで2%上回る物価高はなかったので、長期予想で最終的にはどのぐらいの物価高ですか、というと1.5%ぐらいと見る人が多いです。ひとつ飛び出している細い線は、企業の方です。おそらく企業の方は、消費者物価、スーパーで買う物価というよりも、実際にご自身で資材とかいろいろな物を仕入れているので、その上がり方からすると、もっと上がっている部分があると思うのです。なぜかというと、日本って資源がないので、輸入して、それを使って製品を作るという流れが多いです。そうすると、輸入先の海外は物価2%

以上で安定的に上がってきているので、海外の物価、ドルベースでもユーロベースでもいいのですけど、去年、物価が上がっています。それに輪をかけて円安なので、海外の資材を輸入するとものすごく高くなるのです。ですので、企業の方は、エコノミスト、一般の家庭の方よりも物価高を感じていて、将来的にも2%超が続いてしまうと思っている人が多いという形です。

以上が上がるのか、という話です。

次は、羅針盤はなにかという、われわれは何を羅針盤にしたらいいかです。

ひとつは、株ではない。さっき言っていた金利なのです。株は大きさに言うと、大谷がホームランを打つと上がるとみたいな世界もあるので、悪いことではないのですけども、株だけで見るというよりも金利かなということです。

この見方です。ポイントがあって、一番上の黄色の線、横軸で見ると1.75まで行っています。これはマーケットの人人が見た今後の日本銀行の金利の見通しになります。黄色の線が1.75までいって、2年先の日本銀行の金利を予想しているような数字なのです。いま足元で0.75まで日本銀行が上げてきていて、マーケットの人は2年先になると1.75になると見ているのです。そうすると、2年かけて1%上げることになるので、1年で1%じゃないですか。日本銀行、通常は、金利を上げるときに0.25%ずつ上げていくので1年で0.5上げるってことは、0.25で年2回上げるっていうことですよ。2026年に2回上げて2027年に2回上げると、トータルで1%上げることになって、最終的には1.75までいくのではないかとマーケットの人は予想していることになります。

最終的にどうなるかどうかは別ですけども、いま足元はそのぐらいのペースで年に2回利上げして、1回0.25ずつ計4回1.75まで日本銀行は上げるのではないか、と見立てをしているということです。

金利のポイントは上げる、上がるタイミングです。日本銀行に寄せて言うと、日本銀行の金利を決める金融政策決定会合が年に8回あって、1月に先週やって別に何もやりませんでした。あとは、3、4、6、7、9、10、12って7回あるのです。マーケットの人は年2回上げると予想しているので、だいたい春4月、6月くらいかなとか、2回目は12月、10月の後12月なので、春から夏に1回、秋冬に1回と何となくありそうな感じではないですか。1カ月弱ぐらいたまに言っていたのが、本当かどうか私も分からぬのですけど、政治がバタバタしている時、日本銀行は上げづらいよねと。政府と距離感を保ちながら金利を上げる、なのに総選挙やるようなところで上げられないではないかと。1月初旬までの新聞は、「総選挙は春以降ではないか」という報道が多いと思うのです。そうする

と、4、5月以降に総選挙があるのだったら4、5月に日本銀行が上げるわけがないとマーケットの人が思います。そうすると、7月辺りに上げるのではないかと。その後は12月かと。

日本銀行の中にいる人間からすると1、4、7、10の3カ月ごとというのは、一番本店本部に情報が集まるタイミングなのです。短観という全国の1万社の企業にご協力していただいている統計も発表するし、さくらレポートという全国を9ブロックに分けたレポートも公表するし、その同じタイミングに全部の支店長が本店に行って各地の報告をする。それを1、4、7、10に行っているので、7月に一番情報が集まるので7月に利上げするのではないか、が意外としつこくなるのです。なので、年末年始ぐらいまでは「総選挙は春以降だよね。マーケットの言う7月は別に悪いタイミングではないな。もう一回、上げるのは12月かな」と思っていたところ、総選挙がこのタイミングになりました。そうすると、マーケットから見るとタガが外れたというか、日本銀行の足かせがなくなったのではないかと。そうすると、4月に上げてもいいのではないかと思う人も中には出てくる。4月に上げると、半年後は10月です。先ほど申し上げた1、4、7、10は、われわれから情報が集まるので、半年後の10月はタイミングだけ考えると、悪くはない。10月に上げたあとに1月にも上げたりすると、2027年2回しか上げないと思っていたのに1月に上げると、もう1回、合計3回上げられるのではないかとなってくるのです。

そうすると、冒頭、1.75までしか上げなかったのに、さらに上げると2%になってグラフが切り上がるかもしれない、とマーケットの見方をしているのです。新聞とかを見ると、金利が上がるタイミングについて、春に総選挙がなくなったから日本銀行は早く上げるのではないかとか、と報道がされると、「あれ、ペースが早いじゃないか、そうすると最終的な到達点は1.75ではなくて、2まで上がるのではないか」と報道がされるようになって、上がるタイミングを気にしましょうというところです。

もうひとつが上がっていくペース、2026年に2回であれば、夏前に上げて12月に上げて、でしたけど早まるのであれば最終的にもっと上げるのではないか。いま消費者物価が2~3%ぐらいまで上がっているので、それをを目指すのかみたいな話になってくると、金利も上がるペースも早まっていくかもしれない。年2回じゃなくて2.5回、3回になっちゃうかもしれない。もうひとつ、これが一番言いたかったことなのです。政策金利と長期金利の違いです。政策金利というのは世の中のベースになる金利を日本銀行が上げています。それと国債の金利は別物です。国が借金をします、その借金に対してどのぐらい人気があるかどうかで金

利が上がったり下がったりするというのが、本来のマーケットの見方なのです。国債の金利というのはマーケットで決められるものです。日本銀行は世の中のベースとなる金利を決めて、それをベースにいろいろな銀行が金利を決めていくことになるので、これが違うのは当たり前なのです。

今までの長期金利は、一昨年までの7年間、日本銀行が無理な政策をして1%未満ぐらいに抑え込んできたのですよ。本来だったらマーケットで売り買いされて、国債が評価されれば金利下がるし、日本の借金ダメだとなれば、より高い金利で評価されなくなる仕組みで、マーケットで値決めされるのですけど、それを日本銀行が無理な政策で1%未満に抑え込んできたのです。

なので、政策金利も0%台だったし、長期金利もなぜかたいして上がってない、全く動かない世界だったのです。それが従来のように長期金利がマーケットで決まるものになったので、平たく言うと、今まで変動金利の住宅ローンは上がらないものと思っていたのですけど、「あれ、いきなり上がることになった」と思うかもしれないけど、それは元々マーケットの変動金利で決まって住宅ローンにはねていくので、本来だったら変わるものなのですから、元になる国債の金利を無理やり抑え込んでいたので、住宅ローンに引き寄せれば上がらなかつた。それが10年20年以上前の同じような世界に戻ってきたということですけど、なんとなく肌感覚で長めの金利も短い金利も、日本銀行がコントロールしているので、1回につき0.25しか上がりがないのだったら長期金利は0.25しか上がりないではないかと思いがちなのですけど、そういうものではないということを理解していただくと、日本銀行がちょこちょこ上げた、上げるのが遅いと言っているのとは別のタイミングで長い金利が上がったり下がったりする。そこに気をつけていかないと住宅ローンの場合は上がりますし、企業が長めの金利を資金需要で借りる時には「えっ、こんなに高いの」となってしまうので、気をつけて金利を見ていかないと難しいですね。

このあとは、意図せざるリスクです。世界経済は3%ぐらい、赤いところがいまの足元のところです。本来は、トランプ関税の動きでもっと世界経済が悪くなると思われていたのですけど、意外と影響がないので、アメリカも世界経済も思いのほか悪くない。3%から2%弱ぐらいの成長を続けるだろうと言われています。

輸入品の価格、釧路に引き寄せて言うと、農作物、酪農の飼料や石炭とかいろんな物を輸入していますけども、一般的にいうとあまり下がらないだろう、高止まりするのではないか。それは、海外でもしっかり物価も高くなっていますし、円安の悪影響もあるので、輸入品の価格は高止まりはするけど、大きく下がること

もないだろう、と。

あとは人手不足です。時間もあるので省きますけれども、建設の受注残が積み上がっているグラフなのです。それは、受注が多いからではなくて、受注は一定なのだけれども、人手がいないから受注しません、受注できません、という会社が多くなってきている。1回当たりの工事の日数も掛かってきているので、すごく単純化していると、人手不足なので受注できません、しません。無理できません、というような形にはなってきています。

悪く言ってしまうと、商売の機会を逃している部分があるのですけど、でも人手がいない以上は、できませんというは仕方ないのだろうなと思います。

あとは国内物価。上のほうの点線、薄い所あるのですけども、食料品と米の価格が積み上がっています。真ん中の一番下の濃い青の所が米・食料以外の物価です。この2~3年を見ると、米・食料品以外の所はそんなに大きく上がっていないのです。一番上がっているのが食料品、それにプラスして、この1~2年米の価格がオーナスしているので、物価高は米・食料品で影響を受けています。

これは食料品の値上げの品目数なのです。一番左側の8000品目まで伸びているグラフは2022年10月に値上げした品目数が8000近くありました。それが、棒グラフがだんだん下がってきているので、この8000品目のノリでどんどん食料品が値上がりしていくわけではないので、一定程度食料品の値上げは落ちついてくるのだろうな、とわれわれは見ているというところです。

それから金利のイメージです。先ほど言った日本銀行の政策のイメージからすると、1年、5年、10年、20年、長く借りれば当然、金利は長くなるのです。ただ、短いところは日本銀行の金利にある程度引き継がれるのですけど、長い金利は変わるので、10年20年になるとこんな流れ方をすることもありますよというのが、私がさっき言った注意点であります。

これが、日本銀行が無理して抑えていたような感じには多分ならないので、基本的には青い線赤い線みたいになる可能性が高いから長期金利は注意しましょう。もうひとつの注意が、日本銀行が年に2回ぐらいのペースで金利を上げていくのではないかとマーケットで言われていると言いました。そうすると、一番左の政策金利が上がれば、それに続いて他の金利も上がっていくので、一番左が0.75です。それが2%近くに行けば、この青い線がこのようにスライドする可能性があるので、全体の金利が押し上げられることになるので、長ければ長い金利ほど上がる可能性が高くなるのに注意していただくといいと思います。

それから、日本の成長が1%程度ぐらいで、海外と比べると低いけども、こんな見立てで成長していくので

はないかと見ています。海外は先ほど見たとおり、もう少しいい状況です。

何を目標にするか。対応の方向性、売り上げの確保が重要なポイントになってくるのではないか。なぜかというと、金利が上がります、各種コスト物価高、輸入物価はあまり下がりません、という中で、基本的には売り上げを確保しても経費を引いた経常利益ベースでは苦しくなる世界になります。そうすると、そんな簡単ではないのですけども、能増投資・省力化投資・新規受注・店舗展開をしていくのがオーソドックスなところです。

一例で、1月の初に公表した経済さくらレポートの北海道全体で聞かれた声なのです。人手不足対応のため自動運転機械を導入した建設業者さんは、建築コストが上振れるのだけれども、基幹工事の開始を計画通りに進めないと、今やらないと来年以降さらに上がるから、足元しっかりやります、と。地元客は減少しているのだけど、高価格メニュー自体である程度、道外からの観光客、インバウンドの観光客をしっかり取り込んでいって、売り上げをしっかり確保する、そんな動きが見られています。

もうひとつは価格設定です。値上げはしてきているのでしょうかけども、今後も素材価格・仕入れコスト・人件費等々上がっていきるので、例えば、原材料価格の転嫁は一服したのだけれども、先行き人件費が上昇するので、基本的には転嫁はある程度続けていきます、と言った食料品メーカーの人。それから、お客様の節約志向が長引いているのだけど、戦略的にセールで客寄せをして客を集めしていく、と。あとは、調達量を増やして1個当たりの仕入れ単価を抑制するのを地道に続けていきます、という声とか。賃上げにより離職率が一定程度低下したので、今までのペースほどの賃上げにせずに少し抑えていこうかなとか、いろいろコストを見ながら戦略を練っている会社が見られます。

最後、まとめですが、上がるのか。基本的には金利は上がっていく方向なので気を付けましょう。

羅針盤は何か。いま申し上げた10年国債の金利です。会長がよくA Iを使っていますけど、A Iで「日本国

債 10年金利、今日はどう」と聞くと、まあまあ解説してくれます。最近だと、いろんな各政党の財政政策で財政を緩ませるような政策を言わされているので、それをネガティブ評価して、金利は上がりやすい方向になっていますね、みたいな答えをA Iは出してくれると思います。

それから、意図せざるリスクは何か。さっき言ったように金利が上がるペースとか、日本銀行が上がった金利幅以上に長期金利が上がるとか、あとは選挙がどうなるか分からぬのですけども、それが世の中にどう評価されるのか、財政政策がどのくらい評価されるのか、という意図せざる、マーケットがどう見るかも含めて、悪い評価されちゃう可能性もあるのではないか。それからG D P。一応、日本は成長していく見通しではあります。

目標はどうするか。金利ですと。私が言いたかったのは、荒井会長の顔を見たら、その日は日本国債の金利10年をチェックするのがいいのではないかと思っています。そうすると、ロータリーに毎週来ると必ず日本国債の金利をチェックするという、もうひとつのメリットになります。

今日のお話は、荒井剛の下では、荒井会長の顔を見て金利をチェックするということを皆さん習慣づければいいと思いました。

ご清聴ありがとうございました。

本日のニコニコ献金

■池田 一己君 本日釧路にいないため欠席させて頂きます。申し訳ありません、

今年度累計 351,420 円